

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 1 回 松阪市社会教育委員会議
2. 開 催 日 時	令和 3 年 6 月 30 日 (水) 午後 2 時～午後 4 時
3. 開 催 場 所	松阪公民館 ホール
4. 出席者氏名	(委 員) ◎山本哲司、岡田辰也、垣本長生、亀田孝子、駒田具夫、 阪井正弘、佐々木節子、鈴木寛子、床呂さや子、中尾篤、 西村知晃、廣地淑子、渡邊幸香 《◎委員長》 (事務局) 中田教育長、鈴木局長、村田局次長、中西教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、大辻学校支援担当参事兼学校支援課長事務取扱、藤武公民館マネジメント担当参事兼生涯学習課長事務取扱、刀根スポーツ振興・国体担当参事兼スポーツ課長事務取扱、永田給食管理担当参事兼給食管理課長事務取扱兼松阪市学校給食センターベルランチ所長事務取扱、塩野学校教育課長、赤塚松阪公民館担当監、前出国体推進室長、松葉北部教育事務所長兼北部学校給食センター所長事務取扱、生涯学習係
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 生涯学習課 TFL 0598-53-4396 FAX 0598-26-8816 e-mail ikig.div@city.matsusaka.mie.jp

○協議事項・議事録
別紙参照

令和3年度 第1回松阪市社会教育委員会 会議録（要旨）

○日時：令和3年6月30日（水） 14時～16時

○開催場所：松阪公民館 ホール

○議題

1. 委嘱状交付
2. あいさつ
3. 自己紹介
4. 委員長、副委員長選任
5. 松阪市「小さな親切」運動推進本部役員の選出
6. 協議（報告）事項
 - (1) 令和3年度教育予算について
 - (2) 地域の教育力活用推進事業（コミュニティ・スクール）について（学校支援課）
 - (3) 三重とわか国体・三重とわか大会準備事業について（国体推進室）
 - (4) みえ松阪マラソン事業について（スポーツ課）
 - (5) 松阪地区公民館のコミュニティセンター化に向けての協議について（松阪公民館）
7. その他
 - ギガスクール構想について

○出席者：山本委員長、岡田委員、垣本委員、亀田委員、駒田委員、阪井委員、佐々木委員、鈴木委員、床呂委員、中尾委員、西村委員、廣地委員、渡邊委員

○欠席者：平岡副委員長、森本委員

◆ 議事

(1) 令和3年度教育予算について

意見なし

(2) 地域の教育力活用推進事業（コミュニティ・スクール）について（学校支援課）

意見なし

(3) 三重とこわか国体・三重とこわか大会準備事業について（国体推進室）

意見なし

(4) みえ松阪マラソン事業について（スポーツ課）

委員 マラソンについては昨年から延期されて、申込みはだいぶ前からされていると思うが、いつから申込を開始していますか。

事務局 まだです。

委員 いつから申込を開始して、もし中止の判断はいつ頃される予定ですか。マラソンに興味ある方に聞かれたりすることがあるので。

事務局 本来このような大きなイベントでは大会の準備や参加者等の準備期間が必要となっていてまいります。今年度につきましては、まだ今後の見通しとしてまず東京オリンピックがどうなるかというのがありますので、そのあたりを見極めながら募集を開始する最終のリミットを考えていきたいと思っております。ただ準備はスタッフ会議等を行い、万全にしながら無事に開催できるようにしたいと考えておりますので今しばらくお待ちいただければと思います。

委員 すごく楽しみにしていて三重県で唯一フルマラソンができるため期待も大きいので出来たら終息していて開催できるように祈念しております。

事務局 ワクチン接種の方も進んでおりますし、これから12月に向けてワクチン効果等も期待しているところですし、明るい兆しが見えてきたかなと思います。

(5) 松阪地区公民館のコミュニティセンター化に向けての協議について (松阪公民館)

委員 以前に諮問という形でこの委員会でもらったことがあり、それを基にどのような形になったのかということをお伺いしたい。私もどのようになっているか知らなくて他の市町の方から聞かれて初めて知ったようなことで何も知らないということがあった。個人的にも連絡がなかったかなという気持ちがありました。コミュニティセンターの会議に参加させていただくということは可能なのかも確認させていただきたいと思います。

事務局 平成28年に答申をいただいております。住民協議会の中で公民館活動との連携協働欠かせないというのがありますという答申をいただいておりますので、そういった関係を図るためには、相互のスタッフの定期的な交流や公民館の利用者との交流をさせることが必要であるという答申をいただいております。今、説明させていただきました、コミュニティセンター化の協議の中ではですね、この答申に基づいた、基本方針として、公民館とコミュニティセンターの違いがなかなかボーダーであって、ほぼイコールである地域もあると考えておりますし、新しい組織の中ですら、公民館との位置付けがわざわざコミュニティセンター化にする必要があるのかというような議論も当然あります。そのあたりも地域によって形態が違いますので一律にコミュニティセンター化は難しいかなと思っております。この基本方針を打ち立てながら協議を進めて参りたいと思います。

また報告については、生涯学習課の責任であると思っております。地域組織の一本化の話でございますが、公民館の代表として社会教育委員の中でご出席いただいた方もお見えになりますが、まず地域の組織の一元化を優先的に考えようということになり、それができてから公民館との協議という形になってしまってますので、公民館をまず置きながら進められた経過もあったため皆様にご報告遅れたということはお理解いただきたいと思います。今委員よりご提案をいただいた、この中から選出していただいて公民館での協議に参加していただくという予定はなかったんですが、そのあたりは協議していただきご参加いただけるということであれば社会教育委員のご使命でもあるかと思っておりますので個人的には否定するものではないと思っております。委員長がお許しをいただければどなたかご協力いただければと思います。

委員長 生涯学習課長からご提案いただきましたが、コミュニティセンター化については公民館長等のワーキンググループで話し合いをされておりますので、まとめたものをご報告いただき、私たち社会教育委員はどのような状況なのかを知ること大事かと思っておりますのでお願いしたいと思います。

◆その他

委員長 一応各課の代表的なことをご説明いただきましたが、私達、社会教育委員が知っておかなくてはいけないと言いますか、知っておいた方がいいというような事業について5点説明を頂きました。全体を通して何か言い忘れたこんなこと質問したいことがあればお願いします。

委員 先ほどですね、委員からおっしゃった続きの話をさせてもらえればと思います。そこで1つ提案させていただきます。もしも12月にコロナの影響でとても開催は無理だ、ちょっとそういう空気になりかけてきたら、そうなった場合これは神様から頂いた絶好のチャンスやと思って頂いて、12月の調整の日にちょっと実際の運営を想定したシュミレーションして、予行練習ですね。実際にランナーを走らせて、交通規制して走らせるのではなく信号を守って、それも100人ぐらいを走らせます。するとボランティアの配置、それから交通規制、そういうものが多分今の段階でも十分検討されているとは思いますが、実際にやってみてはないと思うんですよ。それでも、この荷物の運搬から集合、交通規制例えばここに誰を立たすとかそういうボランティアを何人いるか。ボランティアを管理するボランティア。そういったボランティアを教育してそれから中心になって誰が動くか、これをシュミレーションする。最小人数でやってみたらどうなのということを提案します。以上です。

事務局 大変貴重なご意見本当にありがとうございます。我々と致しましても、今年なんとか12月に開催ができるということを本当に信じて、今しっかりと準備をしております。その中で委員からもご指摘頂きました長期運営の部分ですね。42キロのコースと、スターター出発とゴールと別会場に1人ずつ候補をワンウェイの発足しております。従いまして、たくさん先ほどボランティアの方々のご支援が必要となって参ります。当然ボランティアの方々につきましても、たくさんのスタッフの方が必要でして、第1回の本当にこれから歴史が始まる段階でございますので、そうしたスタッフの方々への運営説明会。そういったものを事前にしっかりと行っていくという計画をしているところでございます。競技運営につきましては、ほぼ

専門業者がいますから警備継続、もちろん警察署の方々が中心となって安心安全な、ランナーの方々にとって安心して走って頂けるようなコースというところでしっかりと計画を立てながら準備を進めているところがございますので、何もぶっつけ本番というような形ではなく、しっかりと計画を立てながら運営に臨んでいるところがございます。12月19日、さらに1年延期になったらというようなご提案もございましたけど、なんとかこの12月19日に記念すべき第1回大会の無事に開催することを考えながら進めて行くというところがございますのでお願い賜りたいと思います。

委員長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

委員 今の委員の話聞いて思い当たったことがあったので。シティマラソンがなくなった時に、中止になったじゃないですか。私大石をよく通るんですけど、あそこになくなったのに個人的に走られている方が道いっぱいになって、近いじゃないですか。あそこをずっと結構な、2、30人かな。結構なくなったよなって、中止になったよな、でもやっぱり走りたいという方見えます。それは市側は関係ないと思うんですよ。中止にしたと言ってるんで。でも、走りたい人はそれ通りに個人的に走られるんです。警察の知り合いの方がいたんで、あれめちゃくちゃ危ないですよって、結構皆避けて行くんですよ。誰も気づいてないから、本当に個人で走られているやつなんで。ただ、もう少し市側としては中止と言うだけじゃなくて、ちょっと巡回か何かして、同じコースを巡回してもらって少し注意喚起をして頂けるといいかなと。すごくそれを感じて、何人も結構見えたんですよ。今回規模が大きいじゃないですか。実際になくなっても松阪いいところやでって言って来てくれる方が中止になったとしたらですよ。来てくれる方があったとしたら、同じコースを巡回して交互で呼びかけか何かして、ちょっと田舎道の歩道のないところを走られるじゃないですか。だからちょっと頂くといいかなと思ったものでしたから余計なことですがよろしくお願いします。

事務局 ありがとうございます。おそらく去年というかおととしかな。これは本当にランナーの方々、我々もそういったマラソン愛好家の方々、本当にありがたい気持ちでいっぱいでございます。これはやはりうちの大会だけに限らず、やはり無念にも中止を決意した大会については同様なケースはたくさん聞いておりますし、本来でしたらここで並んで1万人がスタートしてというようなことをランナーの方々が自分の責任の元で走らせるといったことが今年聞いております。ただやはり中止がきちんとなって、そういうランニングの形になっているというところでは、言われ

るように危険回避というのをできるようには考えたいと思うんですけど、なかなか非常に難しいところがございます、またいろんな形で考えていきたいと思うんですけど、
現実的には難しいところもあるかと思いますので検討していきたいと思います。

委員長 よろしいですか。ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員 今回初めてこの会議に参加させて頂いて、ちょっと最初に感じたことを。非常に皆さん熱心に話されていて、どんな雰囲気の中で行うのかなと私個人的には意外やったなというような気がしております。コミュニティセンター化の中のお話については、私も当初は住民協議会として少し関わらせて頂きまして、そして途中からは公民館としてこの協議で4年ほどずっと関わらせて頂いたんです。松阪市住民自治協議会設立準備委員会という形で最終報告を出させて頂きました。その後も今年の3月までずっと議論に加わって来たわけでございますけども、そういった中でコミュニティセンター化が今議論をしている中ですので、あまり今日ここでどうのこうのと方向づけたことは言えないですけども、そういうことで私と、他の委員も公民館連絡協議会の会長という立場で参加していただいております。私が以前からここに関わってきたという風なことで、そんなような状況でございますのでご了承頂きたいと思います。それから、今からの部分なんですけども、先ほどご説明頂きました中の6ページでございます。コミュニティスクールという言葉は良く聞く言葉になりました。そして今日この中で持っていく課題を内容的なものを書いて頂いたわけですけども。そういった中で飯南飯高の方とか、三雲もそうでしたね。そういう風なところから段々ときっかけにするところが立ち上がってきたということなんです、まだまだ松阪市内についてはまだ少ないようでございますけども。今日はそこでご説明頂いたんですけども、実際このコミュニティスクールというのはこういうものやというのは聞かせては頂いたんですが、じゃあどこがアクションを起こすんですかというところなんです。これは地域が起こすのか、学校側が起こすのか、PTA 含め起こすのか、そのような部分でこういうことがしたいんですというだけではなく、どこがどうやって起こしてこれから主体でやっていこうかというようにところをもう少し詳しくご説明頂けたらと思います。

事務局 今回の現状を申し上げますと、やはり学校の方がいろんな人材を探しまして、中心となって頂くような方をコーディネーター等をお願いしまして組織を作っていくという今の念頭でいきますと学校の方が主になって組織を作っていくというような現状になっております。ただ、地域によりましては学校の方にもうちょっと学校の方の運営に協力をしていきたいんや、支援をしていきたいんやと自ら申し出て下さる方も地域の方に見えますので、そういう方と力を合わせて今まさに作り上げていこうとしているところであります。以上です。

委員 ということは学校の方から地域に投げかけをするという風に理解してよろしいですか。学校側というのはちょっと言葉悪いですけど、学校がやる気にならんと地域としては、地域から子どもへお伝えをすれば時間はかかるとは思いますが、どういった形で動いて行こうかなと、よその地域に飯南や飯高でも同じじゃなくて、1番早かったのはたまたまはありますけども。どういう風な形でこれを進めていこうかというのがさっぱり私としてはよく分からないところがあるので、先日も私らの小中学校ですけども、松江小学校と評議委員会がございまして、この辺についてもいろんな話をしたらまだ今のところまだそこまで。こういう風に外堀は飯南飯高で立ち上がって行っているけども今は私らの方はそこまで行ってませんのやわという程度で終わってしまうので、それならばそれでいいかなとは思いますが、今日こういう風な議題が取り上げて頂けるのやったらどういう風に進められるのかなという風に思いましたので、アクションを一番最初にどこが起こすんやということを言って頂いた方が良かったかなとそのような風に思っています。

事務局 ご質問ありがとうございました。元々委員がおっしゃるように評議委員制度というのが学校の方にありまして、学校の方が評議委員さん、保護者の方や地域の方、例えば幼稚園の園長さんとかそんな方々に学校評価をお願いする、学校運営についてのご意見を伺いながら学校評価をお願いするというような学校組織があったんですけども。その辺りとそれからボランティアの方がスクールサポーターということで、本当に毎朝、毎夕立って頂く地域の方。それから先ほど私が申し上げましたように、例えば学校で学習活動を米作りやったりとか、ミシンを本当に担任だけでしているとミシン大変なんです。次から次へと壊れるもんで、それで地域の方に来てもらってそれを家庭の時間に支援をして頂いたり、それから豆腐作りを教えて頂いたり。元々学校と地域というのはものすごく密接に結びついて地域の方も保護者の方も参加して一緒に学校とやっっていこうという土台の方はあるんですけども、それを本当に組織として学校運営に実際に参画してもらって組織として進めて行って頂きたい。そしてこちらも、その組織を元にして地域の方にこ

んなことを学校としてはお願いしたいんやけどって言ったら、分かったという形で地域と学校が両輪になって子供のために活動していくという目的でコミュニティスクールをやっておりますので、おっしゃるようにやっぱり元々の土台をうまく活用してコミュニティスクールの方に進めていくのはやっぱり学校の方が先にイニシアチブとして組織化をしていかないとなかなか地域の方、学校に壁があると思うんですね。なかなか学校って入っていきにくいとかそういうところがありますので、今うちの課の中にもコーディネーターがおりますので、ずっとそのコーディネーターが各学校を回ってこんな風にコミュニティスクールの設立に向けて進んで行くといいよ。こういう風に人を探して組織化をしていくといいよというのを丁寧に教えながら今活動を進めている最中でございますので、丁度今半数ぐらいの学校でコミュニティスクールに取り組んで頂いているところですのでもう少しまた進んでいくと思います。またどうか地域の方々としてご協力をぜひお願いしたいと思います。以上です。

委員長 よろしいでしょうか。

委員 ついでに、私行こうと思ったんですけど、鎌田中学校が新築になりましたよね。あの時も私他の県内の市町の人に鎌中のコミュニテースクールってすごく立派なのができてどういう風に運営されているか知ってるとか聞かれたんですけども、私たちは新聞の情報で得たぐらいの知識しかなくて、どうして見てないのという風なことも何度か聞かせて頂いていて、さっきおっしゃったように課題を持ったからどうやってしてこういう風になってこういう風にここができたというか、鎌中は建て替えとかのタイミングがあったんだと思うんですけども、そういうところから私達本当に知らなくていい話なのかということをよく感じるんですね。これもなんというのか視察というか教えて頂きに行くというのは可能なのという風に聞かせて頂いたものがあったんですけど、そんなんだったら言ってくださいというような話があったんですけどね。それはこのコロナということもありまして流れてしまったこともあるんですけども。やっぱり皆共通に分かってないというか、ちゃんと私達も理解できてないというような状況なんだと思うんですけども、ぜひ機会を作って頂けるものであれば、現状を見せに頂きに行きたい気持ちを持っております。

事務局 ありがとうございます。ぜひ見に行つてあげてください。そういう機会は、鎌中だけのコミュニティスクールだけに留まらず今ギガスクールをやっています。あるいはそれぞれの学校で本当に特徴のある取り組みたくさんしてるんです。ぜひそ

ういう機会を作ります。皆さんがいけるところが1つや2つできるように。そういうところでぜひ学校教育にも大きい意味で支援を頂ければと思います。先ほどのコミュニティスクールですけども、これは私どもも導入する時にいろいろ議論をしました。例えば松阪一斉にコミュニティスクールよーいどんで始めた方がいいのか、どのような形で進めるのが1番いいのかという議論を鎌田中学校ができる平成、その議論が17年ぐらいやります。その時出てきたのは、できるところ、やろうとしているところをしっかりと支援する。だからその時予算もだいぶつけたんです。県外の視察料とか。いっぱい取り組む、いわゆる積極的に取り組むところへしっかりと支援をして、その成果を広めて行こうとそういう風に考えます。もう一つは、やっぱりやらされ感でやっているところと、やりたいという思いでやる場所では全然違うんです。県内でも市は一斉にやります。そうすると全然できてないところとすごくできているところとアンバランスがあって、なかなかそこをお伝えすることができなかつたんです。今学校長に言っているのは、やる場所とやらない場所、説明責任は学校長になる。何でうちはしないんですかという説明を学校長がしっかりとできる。これ大切なことだと思うんです。いやいやうちのコミュニティスクールは、実はコミュニティスクールというのは新しい言葉のようですが、大昔からあるんですよ。地域の方と学校が今までも両輪のようにやっていたんです。例えば田植えやといううち田んぼ使えや。うちのところこんなに大根ようけ出来てきたけど皆で引きに来うへんかとか。ちょっとこんながあるんでって言って昔の総合的な学習の時間が始まった時、いっぱい地域の人が学校に入ってきてくれてたんです。だからコミュニティスクールと言う新しい名前と今までやってきたこととの整理というのがちょっとつききれないところがありますけども。ただ唯一大きな違いは学校運営に関わること。学校長の学校の運営方針に対してもの申すことができる。それではしっかりと地域と学校が準備をする。どんなことができるのか、どういうことをしていくのかというのが大切になります。PTAの方に投げかけるとか地域に投げかけるとか、起点はやっぱり学校にあるかなと。ただ地域の方々は何でうちにコミュニティスクールはないのか、何でうちの学校しないのかというのはその説明責任は学校にある。やっぱり本当に鎌中の取り組み内容ものすごくてですね、ぜひ見に行つたってください。今コロナの中で中学生が、コロナの中で人権的差別。例えばコロナになった子がいると差別にあうのではないかと、こんなことがあつたらどうするのやろかというのを劇にして、それをコミュニティの中で提案をしたら、すごいですよね。ポスターを作つたらどうか、うちのコミュニティこんなことができるからこんなことしよう。実はこの今日お話が出た時、四葉のクローバー、これベルが付いとるやつ。これは当事者とかなコロナになった人とか、学校とか行政とかそれを象徴して、松阪の鈴、ここはちょっと安易かも分かりませんが、鈴を付けて。これは子供たちとコミュニティが一緒

に作ったんです。それを今それを発信しているんです。動画にして発信したり、コミュニティのそれぞれの地域行って子供たちが動いている。あるいは飯南飯高にはですね、生きる力と書いたのを地域の方々と一緒にやるとか。やっぱりそこになつとる熟議とか議論とか、それを丁寧に行われますので、それをぜひ詰めて行きたいなど。私どもは皆一斉によいどんではなくですね、できるところはやる。ただ、できないところはその理由をしっかりと表明をする。説明をする。やっぱり説明責任は学校にあるかなど。もう一つは、ぜひこの委員会で、ただ皆さんお忙しいのでこの日視察に来ますよというのはなかなか皆さんのこの日時では難しい。ただこういうものがあります。ご案内は取り入れさせていただきます。ぜひ鎌中の文化祭であるとか、コミュニティスクールの発表の場面であるとか見に行ってください。子供たちの活動が地域の方と一緒にになったらこんなことができるというのが体感して頂けると思います。本庁管内でぜひ鎌中であつたり、他の中部中も今そういう形で進めつつある。それぞれの学校の特色を生かしたコミュニティスクールがさらに発展できるように、教育委員会としてもしっかり支援していきたい。また、こういう場面ちょっとなにかありましたらぜひ議論して頂きたい。またちょっといろいろご案内をさせていただきますので、ぜひ皆さんと一緒につながりは難しいかも分かりませんが、ここでこういう発表がありますので来ませんかというご案内をさせてもらってということをお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

委員長 ありがとうございます。改めてというよりも教育長がおっしゃられました学校の案内を頂いて私達がお邪魔をするというような、そんな格好でこれからも続けさせていただきますと思います。

委員 分かっているのかいらっしやらないのか分からないんですけども、学校図書のこととちょっとお伺いしたいことがあります。実は学校のボランティアで図書館に行かせて頂いているんですけども、廃棄図書というんですか、それが時々山のように出てるんですね。傷んでいるものも確かにあります。これは捨てるべきであろうなと思うようなものもあるんですけども、図鑑とか資料的な本が本当にまだ読めそうな、使えそうな誰か読みたいだろうなという自分がというか私が読みたい本が何回も出るんですね。これって公民館かどっかに、それこそ放課後児童クラブとかそういうところでほしい人あると思うけども、その人たちの中から持ちにおいでというような声掛けはできないのかなという風に言いましたら、これはもう廃棄になりますと言いました。リサイクルされますので、無駄とかもったいないとかそういうことはないと思うし、その手間を考えるとねという感じのお答え

だったものですから、私はその時なくなく廃棄の倉庫の方に運ばせて頂くことをしたことがあるんです。地域の放課後児童クラブとかそういう子供の施設の人に言ってそういうのって足りてへんのって聞いたら、棚がいっぱいとか新しい今まで見たことのない本があればいいなと思ってるっていう、もしそんなんあったら教えてねと言われたんですけども、私もボランティアですのでいつそういうことがあってどうなっていくのか廃棄がどういう風に決まっているのか、もう廃棄と決まったら廃棄するべきものとなっているのか、そこら辺も分からないんですけど、また機会があったら聞いてはおくねという風な感じで言うておいたんですけども。あの図書の廃棄というか図書館の中では廃棄図書を時々欲しい人はどうぞという感じで言われることはあるんですけども、学校の図書もそういう形ではできないのか、それとも雑務が増えるからできないのか、その辺のところはどうなっているのか少し教えてください。

事務局 ちょっと自分の実体験になるかもしれませんが、もしかしたら他の学校はというのはあるかなと思うんですけども、学校図書というのはやはり学校予算の中で購入をしたものですので、廃棄という風に決まってしまうと備品と同じで、やはり廃棄をしなければならないというのが決まってはいることなんです。ただですね、中身を読んでもらった時に図鑑とか百科事典とかはどんどん情報が更新されていくので新しいのを買わないと子供たちが読んだ時に古い情報が頭に入っていくというのがあるので、もうそれについてはちょっと難しいかなと思うところはある。

委員 それは分かっているんですけど。それを資料として辞典とかそういう目にしてない人もいるわけじゃないですか。
そういう人にはとりあえずの、それこそ図鑑見てもらったりなんかになるんじゃないかなという風に考えておまして、すみません。

事務局 図書室にある本だけでなくて実は学級の方にも学級文庫というのがありまして学級文庫もなかなか本が揃わない状況がありますので、よく図書室にある本をある一定の期間、巡回をして学級の方へ置くというような、取り組みをしている学校もたくさんある。特に小学校は多いと思います。そんな中にはまだ使えるそれこそ図鑑やったり百科事典もまだ情報としてまだ大丈夫なものとか、中身を見てこれは学級文庫で活かせるというものについてはそういうところへ置かせてもらったりとか、子供たちがよくいる部屋に例えばバスを待っている子とかがちょっと待ってる部屋というのがありますのでそこへ置かせてもらったりすれば、学校の中で活用している古くなった本を。そういう学校はたくさんあると思うんです。それ

を他のところへ譲るというあたりについては、やっぱりなかなか廃棄という風に学校のもので廃棄となったものを譲渡するというあたりについてはちょっと難しいかなという部分がありますので、またそういうことが可能かどうかということをお学校の担当の者とちょっと相談をしておきたいなと思います。有効活用することは本当に大事なことだと思いますので。

委員　　お願いします。

以上